

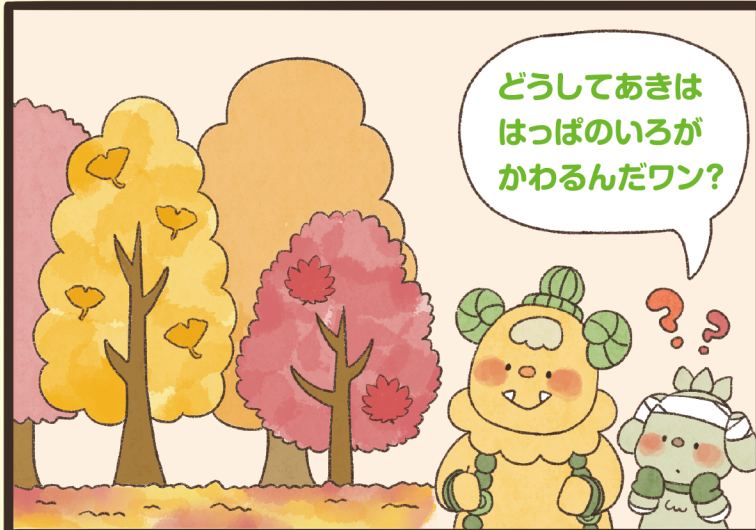


もりのふしぎ

なぜあきは はっぱのいろがかわるの?

イラスト/たけだあおい

このコーナーでは、お子さま向けに環境問題・自然のことにに関する言葉をポノロンといっしょに学んでいきます。ぜひご家族で対話のきっかけにしてください。



あきのもりは
いろとりどりで
きれいだワン!

はっぱがあかや
きいろになることを
「こうよう」
というんだロン



なつはみどりいろ
だったのに、
どうしているが
かわったんだワン?



はっぱをおとすまえに
みどりのえいようぶんを
とりだして、
きにたくわえるから
いろがかわるロン。
あかやきいろは
のこったえいようぶんの
いろだロン。



きはかしこいワン!

「こうよう」は、さむいふゆをじっとたえるためのじゅんびだロン。
きれいなあきのけしきを、みんなでたのしむロン!



おうちの方へ 落葉樹には葉が赤くなる「紅葉」と黄色くなる「黄葉」があります。このふたつではメカニズムが少し異なります。葉には「クロロフィル」という緑色の色素が含まれており、秋になると、気温が低く日照時間が短くなるので、落葉の準備のためクロロフィルを分解します。そのため、緑色が薄くなり、黄色い色素である「カルチノイド」が目立つようになります。これがイチョウなどの「黄葉」です。カエデなどの「紅葉」は低温によって葉に溜まった糖分とクロロフィルの化学反応により発生する「アントシアニン」が増えることで赤く見えるようになります。落葉樹は冬のエネルギーや水分の消費をできるだけ少なくするために、秋に葉を落とし、冬を乗り越えているのです。

【監修】セブン-イレブン記念財団 高尾の森自然学校 後藤章



▲秋の森林 (高尾の森自然学校)